



石金精機・製造3課

組み立て・仕上げ 横森 重勝さん

マイスター
に聞く

115

工作機械や半導体装置、省力機械など精密機械部品の設計製作を手がける石金精機（富山市、清水克洋社長、076・423・8317）の横森重勝さん（76歳）は、組み立て仕上げ技能士1級の資格を持つ。社内ではゴールドの名札を付けて作業する。富山県には2002年度から高度に熟練した技能を持ち、技能伝承や後継者育成に積極的に活動する技能者を「とやまの名匠」とする制度がある。横森さんは09年度に認定された。

信条は「顧客が求めることを作り込む」と。単に製品となる形状があるものを作るのではなく、「機能・性能・品

質・精度など満足させるべきことを常に念頭に置く」という。手にする材料はアルミニウムや鉄、セラミック、樹脂など幅広い。最近では航空機や医療・医薬分野の部品仕上げにも携わる。機械で全部仕上げる予定の部品が、加熱や切削時抵抗の応力などで変形する時に横森さんの出番となる。曲がりや面の粗さ、バリの発生など手仕上げで修正する。

「航空機部品を加工する時は、飛行機そのものを作っている気持ちでいる。自動車部品でも同じ。飛行機や自動車に乗る人のことを考えると、手抜きやごまかしはあり得ない。これなら満足し

顧客満足度 常に念頭に

でもらえると思えるまで続ける」と力を込める。多品種小ロット加工が増え、毎日違う仕事に出会う。「（顧客の）要求に応え、効率を上げていいものを作るために工具や治具なども自分たちで製作している」と何百種類の治具が棚に並ぶ。

「各人のやり方があるが、段取りを考えることが楽しい。今でも自分は進化していると思う」。後進の指導は手取り足取りではなく作業しているところを見て、「もっと他にやり方がないか考えてもら」とアドバイスする。「モノづくりは考えることが勝負。考えたことが形になる。製品として完成する喜びは、モノづくりの好きな人にとってたまらないことだ」とほほ笑む。

（富山支局長・渡辺大介）
（水曜日掲載）

機械・ロボット・航空機